

ウッドパッカー

青森県教組養護教員部 2018.12.5.

折々のことば

鷲田 満一 1299

どんな人生を歩んできたか、何に関心があるかなど訊かれず、「お元気でねえ」と言われ続けるうち、しまいに腹が立つてきたという女性のほろおきに、ノンフィクション作家の久田恵は不意をくらった。人はついで他人をカテゴリーにあてはめて見、その人自身を通り過ぎる。久田十花げし會編著『100歳時代の新しい介護哲学』から。

2018・11・27

お元気でねえ、学校といふと、まもなく冬休みです。職場から離れて少しゆったりして下さい。とはいつても年末年始のあれこれを考へることも、少しゆったりするお元気でねえ、学校といふと、まもなく冬休みです。

ある有料老人ホームの入居者

2018. 教育のつどい保健室分科会 参加者 11名
こんなことが話し合われました (一部)

- ♡ 新採用の方 2人から (半年勤めてみて思っていること)
 - ・ 養教が担当する仕事は、担任は知らない。誰に聞けばいいんだろ。
 - ・ 期限のある事務的な仕事が多くて、びくびくしている。
 - ・ 来室した子が本当に具合が悪いかわからない時がある。他の先生方から「(子どもが)甘えていると判れる」。
 - ・ 処置のしかたに ~ 根拠を見つけれないときがある。
 - ・ 先生方とはコミュニケーションが大事だと思っている。普段から挨拶したり話しかけてリというのが基礎になる。

- ♡ 保健室をブラックボックスにしない
 - ・ 保健室を見せていく。職員室用保健だまりを配る
 - ・ 子ども理解のために、記録をより先生方に開示する
 - ・ 保健室に留まらないで、校内を歩く

- ♡ 先生方とはつながる方向で。お互いの役割を尊重し合。
 - ・ 若い頃は先生方が敵だと思っていた

- ♡ どんな訴えに対しても、仮病とは思わずに、痛みがあると思えば対応・手当てする
 - ・ 小さい傷にこそ大きなものがある。「嘘をつく」「するをする」理由がある。そこに目、気持ちを向ける。

- ♡ 子どもとの出会いが、自分の養護教諭観、保健室観を育ててくれた。今出会っている目の前の子どもたちを大事にしたい。
- ♡ 自分と同じようなことで悩んでいる人がいると思うとほっとするし、つながりもできるような気がする。きょうは深い勉強ができた。『自己肯定感』という言葉も高垣先生から教えてくれた。温かい気持ちになれてとても良かった。

本の紹介

高垣忠一郎 著
新日本出版社

2018年8月10日初版
『自己肯定感を抱きしめて
~命はかとも愛おしい~』

自己肯定感は愛でふくらむ「浮袋」

「自己肯定感を高める」と、まるで資質や能力を高めるかのよう

にいう人がいる。それは違う。自己肯定感はいのちのちに備わっている「浮袋」のようなものだ。生きづらさの海で溺れる人に投げられた浮袋。「愛の息吹」をいっぱい吹き込まれてふくらむ浮袋だ。それを抱きしめていけば、冷たい荒波のような人生も溺れずに生きていける。そう、「高め」るのではなく、「抱く」ものなんだ。抱きしめれば、自分が抱かれ「よしよし」と言われ、安心できるもの。「よしよし」は評価ではない。共感とゆるしであり、愛。この浮袋があれば「自分が自分であって大丈夫」と思える。「大きないのち」の「分けいのち」である私たちには、それが備わっている。ただ、愛を吹き込まれてふくらんでないだけだ。羽化しそこなったセミを見た。伸び切らない羽根を震わせ、か細い脚を踏みしめている。空に飛び立つことはないが、いのち一杯生きている。精一杯生きるよ。

高垣忠一郎：心理臨床家。1944年高知生まれ。現在、登校拒否・不登校問題全国連絡会世話人代表

高垣先生は県養教部の学習会に何度も講師として来て下さいました。心に残るお話が多く、新刊は、高垣先生の写真と文によるフォトエッセイです。

塾で中高生に教える友人が言いました。「子どもたちを悩ました」。きました。叱ったりいろいろやっているけれど、もう枯渇していく感じ。娘と一緒にお茶を習いたい。お茶の先生から「その歩き方は駄目」とか。別な世界に身を置きたいってことよね。そこで自分が豊かになって、子どもに向かうときにプラスになって返っていく。そういうと、私。10年以上年下の彼女のメルマガに応援しています。

文責 阿部陽子 スマイルサポート(017-722-3749)

土山支満子先生の講演を聞きに行きませんか。

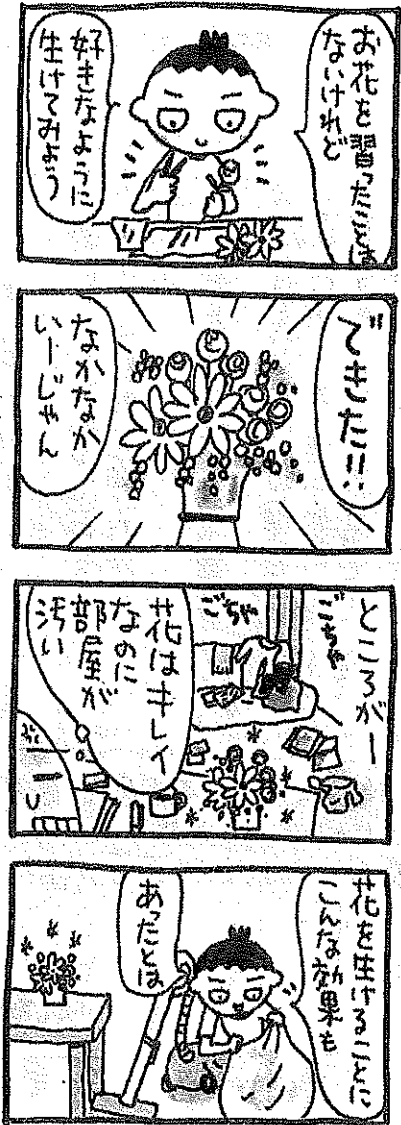
◇ 2019年1月13日(日) 13時~14時40分
◇ 浅虫温泉 海扇閣
散らしを同封しました。宿泊希望の方は12/5まで。そうでない方は、当日参加も可。

私たちの大先輩である土山支先生。その土山支先生に憧れて後ろを歩いてきました。現職時代は(私の)勤務した小学校の参観日や、中学生の思春期教室でお話ししていただいたこともあります。土山支先生のお話を聞くと胸がいっぱいになって泣きたくなる。ことがたびたびありました。



花を生ける。

CHECK!



今でこそ私の部屋には緑を欠かさなければいけません、以前はあんまり花に興味がありませんでした。

とにかくめんどくさい。花を頂くのはもちろん嬉しいんですが、生けても水を替えなきゃいけないし、花粉や花びらも飛ぶ。「これなら大丈夫」って太鼓判押された観葉植物でも、水をやり忘れて枯らすあり様。

ところがいつだったかあまりに仕事の締め切りに追われ、気持ちも殺伐としてきた時、「このままじゃ人間性がなくなる」と思い、なんだか突然花でも生けてみようか、という気になったのです。

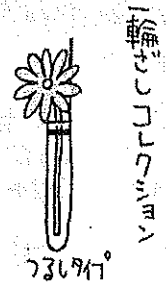
といっても花を生ける知識は何もなし。えいって、いつも水を飲むグラスに適当に好きなように生けてみると……。

あれ、なんだか部屋の空気が変わった！ 花のエネルギーが流れてくる感じ。

それ以来、最初はたくさん咲いていた花が枯れてきても、元気なものを選んで最後の一輪までちゃんと大切に生けるように豹変した私。最後まであきらめずにしぶとく可能性を探す姿勢は、仕事にも応用できるなあ。コドモたちが学校帰りにつんでくる花も、小さなコップに生けてみるとエネルギーに満ちあふれている。

仕事が進まなくてイライラしている時に、花に水をあげたり水を替えたりすると、ちょっと気持ちも楽になるのです。

一輪の花でも、やさしい気持ちになれる。



●気持ちから、変えてみる!

